

**資源評価調査委託事業**  
**スルメイカ漁場一斉調査（要約）**

清藤真樹<sup>1</sup>

## 目 的

太平洋海域におけるイカ類資源の有効利用、イカ類漁業の操業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

## 材料と方法

6月と8月に本県東方の太平洋海域において、下記調査を行った。

### 1. 第一次調査

- (1) 期 間：平成26年6月3日から6月9日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域35地点についてseabird社製CTD・911plusを使用して表層から最深500mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、14地点において2連式3台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

### 2. 第二次調査

- (1) 期 間：平成26年8月27日から8月30日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域32地点についてseabird社製CTD・911plusを使用して表層から最深500mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、8地点において2連式3台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。なお、本調査は、北海道沖の太平洋沿岸のイカ類の漁海況予報を目的に、北海道区水産研究所と北海道と東北にある4道県が分担して実施した。

## 結 果

### 1. 第一次調査

津軽暖流は、水温が0m層で「やや低い」、50m層、100m層で「平年並み」、水塊深度が「平年並み」、東方への張り出しが「やや弱い」という結果であった。

また、14地点すべてでイカ類は漁獲されなかった。

### 2. 第二次調査

津軽暖流は、水温が0m層で「平年並み」、50m層で「やや高い」、100m層で「平年並み」、水塊深度が「平年並み」、東方への張り出しが「平年並み」という結果であった。

8地点中4地点でイカ類が漁獲された。8地点中2地点でスルメイカ、3地点でアカイカが漁獲された。スルメイカの有漁率が25.0%、アカイカの有漁率は37.5%であった。漁獲されたスルメイカの外套長は22cmから23cmで、漁獲尾数は1尾から3尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.10から0.30であった。また、アカイカの外套長は23cmから32cmで、漁獲尾数は1尾から4尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.10から0.40であった。

---

<sup>1</sup>青森県農林水産部水産局水産振興課

発表誌：平成26年度イカ類漁場開発調査資料第40号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集, 平成27年8月